令和６年度　学校総括評価表

学校経営上の重点項目

No.１　確かな学力の育成と指導力の向上
No.２　基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底
No.３　人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進
No.４　個に応じた支援を行う特別支援教育の推進
No.５　心身ともに健康な児童を育てる特別活動の推進
No.６　開かれた学校づくりの推進

徳島市方上小学校

令和６年度　　学校評価　　総括評価表(№１)　　徳島市方上小学校

自　己　評　価					学校関係者評価	次年度の課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	今後の改善方策
確かな学力の育成と指導力の向上	主体的・対話的で深い学びでの実現に向けた授業改善 ①　読解力の向上のために、語彙力をつけ、基礎・基本的な知識・技能の定着と伸長を図り、継続的に読書や日記に取り組む。	評価指標 ①-1　朝の活動や授業の振り返りにタブレットを活用し、自主的に課題に取り組めるようにする。 ①-2　既習の知識や技能を生かすことができるように、教材を工夫して授業展開を行うとともに、読書習慣を身に付けさせる。	評価指標による達成度 ①-1　朝の活動などにタブレットを活用し、自主的に課題に取り組めるようなってきている。家庭学習がよくできている子は、80%と昨年度よりは増加している。 ①-2　教材を工夫して授業展開を行うことができるようになってきた。読書ができている児童は、70%と増加しており、読書への関心は高まっている。	総合評価 (評定) B	(所見) いろいろな学習に落ち着いた様子で取り組めていた。 家庭学習への取組について家庭でも十分に取り組めておらず難しさを感じる。	・授業の振り返りにタブレットを活用することにより、学習活動の思考過程も残るため、学校全体で取り組む。 ・家庭学習の習慣の定着を目指し、実態の分析と改善方法を検討する。また、家庭への啓発や協力を具体的に呼びかける。 ・読書への関心の差が大きいため、実態にあった目標冊数を決めるとともに、読書習慣がつくように学校全体で継続的に取り組む内容を検討する。 ・どの授業のどの場面で思考の過程が残るようにするのかをしっかり考え、計画を立てて実践することを共通理解のもと取り組むようにする。 ・学習計画の立て方や課題解決学習の仕方等を学年に応じてしっかり指導していく。
	②　タブレット端末を活用して考えをまとめたり、整理したりして、自分の考えを表現することができる。	②-1　発表の前に自分の意見をタブレット等にまとめさせて自分の考えに自信をもてるようにする。 ②-2　ペアやグループで意見交流をしてから発表するようにする。	②-1　発表前に自分の意見をまとめさせる機会を多くとったことで、自分の考えに自信をもって発表できる子が増えてきた。 ②-2　ペアやグループでの意見交流後に発表することで進んで発表する子が増えた。	(所見) タブレット端末の活用が、繰り返し学習による基礎基本の定着や表現力の向上に効果を上げている。しかし、主体的な学習や家庭学習に十分に結びついていない現状があり、学習習慣の見直しや家庭への協力を呼びかける必要がある。 教材の工夫による授業の改善に取り組むことができたが、思考過程が残るように内容の検討をしたり、振り返り活動を充実させたりするなど、学校全体としての取組の徹底が十分に行えなかったことは大きな課題である。		
	③　自分の学習状況を振り返りながら、学習に主体的に取り組むことができる。	③-1　グループ学習を積極的に取り入れ、自分の考えを明確にしたり発表したりする機会を多くとる。 ③-2　ワークシートやノート、タブレット等を活用し思考の過程が残るようにする。	③-1　グループ学習を積極的に取り入れ、自分の考えを明確にしたり発表したりする機会を多くとることができた。 ③-2　ワークシートやノート、タブレット等を活用し思考の過程が残るようにするのには課題が残る。			
		活動計画 ①-1　ICTサポーターによる授業支援を活用し、タブレット活用を積極的に行うとともに、タブレットでのドリル学習を繰り返す。 ①-2　学年ごとに具体的な読書に関する目標を設定する。	活動計画の実施状況 ①-1　ICTサポーターによる授業支援を活用し、タブレット活用を積極的に行った。タブレットでのドリル学習も繰り返しすることができた。 ①-2　学年ごとに具体的な読書に関する目標を設定して取り組むことには課題が残った。			
		②-1･2　表現の場を全ての教育活動で数多く設定し、全児童が自信をもって表現できるようにしていく。	②-1･2　表現の場を全ての教育活動で数多く設定し、児童の自信をもった表現活動に結びつけることができた。			
		③-1･2　自分で計画を立て、課題に主体的に取り組む学習を積極的に行う。	③-1･2　手引きや取組紹介等により、児童が自主的、主体的に学習に取り組むよう指導を行ったが成果は十分ではなかった。			

令和６年度　　学校評価　　総括評価表(№２)　　徳島市方上小学校

重点課題	重点目標	自己評価 評価指標と活動計画	評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定)	(所見)	
基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	①　望ましい生活習慣を身に付け、学校のきまりを守って生活できるようにする。	①　基本的生活習慣の確立に向けて、家庭と学校の連携に関する肯定的意見の割合を８５％以上とする。	①　７３％の家庭が、基本的な生活習慣の確立に向けて連携できているという肯定的な意見をもっている。	B	安全な登下校に関して、朝夕の時間帯にスピードを出して通る車が多く見られるため、横断時が心配である。左右の確認をしっかりしてほしい。	・気持ちの良い挨拶の指導やきまりを守ることに関する内容については、SWPBSの目的行動とし、学校全体の課題としてに継続的に取り組む。 ・本年度の実態調査にもとづき、ＳＮＳとの関わり方について生徒指導や保健指導など多面的に指導を行う。 ・安全指導については、対処的な指導となっているので、意識の継続ができるよう定期的に啓発する。
	②　気持ちの良い挨拶ができるよう指導を徹底する。	②　児童が進んで挨拶を実施する割合を児童・保護者ともに８０％以上とする。	②　児童８３％、保護者８６％が挨拶ができているととらえている。しかし、声の大きさや自主性などについては十分と言えない。	(所見) 基本的生活習慣については、連携が十分ではないと受け止めている保護者が４分の１に達しているため、児童への指導と併せて保護者への啓発や協力の呼びかけが必要であると考える。 また、挨拶の実践についても、気持ちの良い挨拶へとつながる具体的な取組の工夫が必要である。 校内のきまりを守って生活している児童が大半であるが、徹底できていない実態がある。また、ＳＮＳとの関わりに課題がある。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①　児童朝会や昼の放送等で望ましい生活習慣の定着に向けて徹底を呼びかけるとともに、保護者への啓発を行う。	①　保健委員会による清潔検査結果の放送や、学校保健委員会で児童の生活習慣に関するアンケート結果の報告をした。毎月発行している保健便りや学年便りで家庭への啓発を続けている。			
		②　生活委員会によるあいさつ運動を実施し、継続的に指導し、定着を図る。	②　あいさつ運動の継続により挨拶することへの抵抗感がなくなり、定着してきているが、高学年が次第に受動的になってきている。			

令和６年度　　学校評価　　総括評価表(№３)　　徳島市方上小学校

自　己　評　価					学校関係者評価	次年度の課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) B	(所見) 音楽を通して、命の大切さや人と人とのつながりなどについて考える機会となった人権コンサートは、非常に良かった。	・人権問題学習を充実させ、友だちの気持ちを考えて行動することや、協力して生活することについて考えさせる。 ・微増しているが、自尊感情を高めることが本校の課題であるため、自他のよさを知り、実感できるような体験活動やＳＷＰＰＳへの取組により、望ましい行動を引き出し自尊感情を高めるようにする。
人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	①　学校教育活動全体を通して人権尊重の考えを身に付け、温かく人間味あふれる豊かな感性をもった子どもを育成する。 ②　相手の立場に立って考える温かい心をもち、互いの違いを認め合い、支え合って生活しようとする集団を育てる。	①-1　縦割り班活動や人権問題学習を通して、友だちと仲良く遊び、協力して生活できる児童の割合を９２％以上とする。 ①-2　自分の長所(良いところ)を知っている児童の割合を、７５％以上とする。 ②　友だちがつらい思いをしたり困っていたりするときは、一緒に考えたり行動したりできる児童の割合を９０％以上とする。	①-1　縦割り班活動や人権問題学習を通して、友だちと仲良く遊び、協力して生活できる児童の割合が８９％にとどまっている。 ①-2　自分の長所(良いところ)を知っている児童の割合が、７６％になった。 ②　友だちがつらい思いをしたり困っていたりするときは、一緒に考えたり行動したりできる児童の割合は９２％になった。	(所見) 異学年集団の縦割り班活動に継続的に取り組んでいるが、６年主体の活動となるため、低学年への優しい心情や高学年としての自覚などが育った。 人権について考える機会が増えたことが、自他を認め、支え合おうという意識や態度につながったのではないかと考える。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1･2　教育活動全体でポジティブな行動支援のもとに、子ども一人一人を大切にする教育を推進し、優しく思いやりのある児童を育成する。 ②　参観日やＰＴＡ活動などで、人権について考える機会を設ける。	①-1･2　教育活動全体でポジティブな行動支援を実施し、、子ども一人一人を大切にする教育を推進し、優しく思いやりのある児童を育成することができた。 ②　人権コンサートや人権集会など、従来のものに加えて人権について考える機会を増やしたり内容の工夫をしたりした。アンケートを実施し、実態把握も行った。			

令和６年度　　学校評価　　総括評価表(№４)　　徳島市方上小学校

重点課題	重点目標	自己評価 評価指標と活動計画	評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
個に応じた支援を行う特別支援教育の推進	①　特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育に関する校内体制を整備し、全教職員の共通理解のもと、保護者・地域への啓発と教育活動の推進を図る。 ②　児童一人ひとりに応じた支援を行うために、教育内容や教育方法の工夫改善を図る。	評価指標 ①-1　児童一人ひとりに応じた支援に関する保護者の満足度を８０％以上とする。 ①-2　児童理解のための情報交換会を学期に１回実施する。 ②　各々の子供の特性に応じ、頑張ったことを教師から褒められていると感じている児童が８５％以上を目指す。 活動計画 ①-1　特別支援教室での学習の様子を職員に公開し、共通理解を深める。 ①-2　児童理解を目的とする校内研修を全ての教員が行う。特に気になる児童や支援が必要な児童に対しては情報の共有化を図り、全教職員が観察や指導を行う。 ②-1　教育活動全体において児童の頑張りを褒める機会を設ける。 ②-2　家庭との連絡を密にすることで、保護者との良好な関係の維持に努める。	評価指標による達成度 ①-１　７１％の保護者が、児童一人ひとりに応じた教育が行われているととらえている。 ①-２　問題行動や必要な支援については、毎学期情報交換をし、その都度共通理解している。また、ケース会議を状況の変化に応じて設けるなどして対応策の検討と共通理解を図った。 ②　先生は自分の頑張ったことを褒めてくれるととらえている児童の割合は８８％である。 活動計画の実施状況 ①-1　特別支援学級の学習を参観し、在籍児童の特性や個別の支援について理解した。 ①-2　校内研修で全ての教員ではないが、研究授業を行い各学級の児童の把握、及び授業改善について研修を行うことができた。 ②-1　児童を褒める言葉かけを心がけ、全職員がSWPBSの視点で全ての児童に関わるようにしている。 ②-2　家庭とは主に電話での連絡で、健康面・生徒指導面について、連携を行っている。即日対応やきめ細かな対応を心がけたことにより良好な関係を維持できている。	総合評価 （評定） B （所見） 全職員がSWPBSの視点をもち全児童に関わり、声かけを行っている.自分に自信がもてず、様々に苦手意識を抱える児童もいたが、連携体制のもと、実態に応じて個別に支援をしてきたことで、状況が改善され、学校生活の安定につながってきている。 しかし、個に応じた支援の現状がよくわからないと思っている保護者が一定数いることから理解や啓発を図る必要があると考える。	（所見） 学習活動に前向きに取り組んでいて、個別に支援している様子が分かった。	・来年度は特別支援学級が３クラスになり、特別支援学級の児童を３名の担任で指導する。どのクラスも複数学年の児童を１人の教師が見ることから、個に応じた学習指導や、基礎基本の定着、望ましい生活習慣など、さらなるカリキュラムの見直しが必要である。 ・通常学級においても、個々への支援について十分な連携のもと学習指導を行っていく必要がある。また、個々への支援の状況が十分に伝わっていない現状を真摯にとらえ、学習支援の方法や個別対応の状況について積極的に保護者に伝えていきたい。 ・合理的配慮等が必要な児童への対応について、チームを組み、担任の負担感を軽減する。

令和６年度　　学校評価　　総括評価表(№５)　　徳島市方上小学校

自己評価					学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
心身ともに健康な児童を育てる特別活動の推進	①　異学年集団を中心とした活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。 ②　心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高めるための活動を推進する。	評価指標 ①　様々な異学年集団活動に対する児童の満足度を８５％以上とする。 ②-1　学校でも家庭でも、元気いっぱいに運動している児童の割合を８５％以上とする。 ②-2　生活調査や食育の授業を行う。 活動計画 ①　異学年班での読み聞かせや遊びの活動を毎月実施し、徒歩遠足などの異学年での交流の充実を図る。 ②-1　体育学習の充実と休み時間の外遊びの推奨を行い、運動が好きな児童を育てる。 ②-2　保健委員会の生活調査や、給食委員会の栄養についての話を全校放送し、健康についての意識を高める。	評価指標による達成度 ①　８８％の児童が満足と答えた。縦割り班の活動を年間を通して継続的に実施することができた。 ②　８５％の児童が、運動に取り組んでいると答えた。休み時間を教室で過ごす一定数の児童がいる。 ②-2　生活調査を継続して実施し、生活習慣調査の結果とともに実態や課題への理解を児童や保護者に図った。 　食育については、ゲストティーチャーを招いて系統的に指導を行った。 活動計画の実施状況 ①　読み聞かせや、遊びの活動など異学年のなかよし班で計画した行事等は全て実施し、年間通じて同じグループでの交流を図ることができた。 ②-1　全員で外遊びをしたり活動内容を児童が計画したりする機会を設けるなどの工夫ができた。毎月１回の縦割り班での遊びも、運動の機会になっていた。 ②-2　保健委員会の生活調査により、清潔な身なりや朝ご飯を食べるなど、児童の意識が途切れないようにしている。 学校保健委員会では、全校児童や保護者を対象に本校児童の生活習慣調査の結果を報告し、課題に即した講演会を実施する機会をもった。	総合評価 （評定） B （所見） 　異学年集団活動の満足度は上がっているもののどの学年の児童も活動への意欲や目的を持てるように工夫する必要がある。 　休み時間の外遊びは、室内で過ごす児童が一定数おり２極化しているが、各クラスの取組の工夫により、多少ではあるが改善している。家庭でも同じような状況で、ほとんど運動しない児童もいる。 　保健委員会の活動は、清潔や病気の予防を意識づけるには効果的であった。	（所見） 　平日だと参加しづらいため、講演会等を期間限定で配信してもらえると有り難い。	・単発的な活動には取り組むが、運動習慣の定着には難しさがあるため、保健指導と体力向上の両面から意識付けする。また、２極化の解消につながる継続的な活動を再検討する。 ・運動や食べることの楽しさに気付くことができるように外部講師の招聘等を積極的に行う。 ・みんなが活躍でき、協力して取り組むことを目的とした縦割り班活動や学級での活動を検討する。

重点課題	重点目標	自己評価 評価指標と活動計画	評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
開かれた学校づくりの推進	①　学校と家庭・地域との連携を密にし、子どもの教育を中心とした信頼関係と協力体制を築く。 ②　ＰＴＡ役員会や学校評議員会・学校運営協議会等で、学校の教育活動やＰＴＡ主催の行事について地域や保護者の意見をしっかりと聞き入れ、学校運営に反映させる。	評価指標 ①-1　学校行事等をよりよく改善し、保護者や地域の方が学校教育活動に対し、より理解・協力しやすいように工夫して実施する。 ①-2　教育活動の様子が保護者に伝わるようにする。 ②　保護者や学校評議員・学校運営協議会委員等の学校への建設的な意見を反映させた学校運営やＰＴＡ活動を進める。 活動計画 ①-1　学校への来校の機会や児童の学習活動の参観等を通して、保護者との連携を保つようにする。 ①-2　学校ホームページ、学校だより、学年通信、保健だより等を通じて学校での教育体制が具体的に保護者に伝わるようにする。 ②　夏祭りを開催するとともに学校運営協議会において、地域とともに生きる児童を育成するための意見交換を行う。	評価指標による達成度 ①-1　より多くの保護者や地域の方が参加しやすいように参観授業と組み合わせたり、実施時期や活動内容を工夫したりしたことにより、91％の保護者が肯定的に評価している。(1％増) ①-2　ホームページや方小だより・学年だより等で、教育活動の様子を写真入りで定期的に伝えるようにしてきたので昨年度と同等の割合の保護者が肯定的にとらえている。 ②　ＰＴＡ活動については夏祭りの運営などに意見を反映させ、よりよい取り組みに改善することができた。昨年度の学校評価での意見も参考に、ペーパーレス化やＩＣＴ利用を進めた。 活動計画の実施状況 ①-1　９１％以上の保護者が肯定的にとらえており教育活動やＰＴＡ活動に関して協力をいただくことができた。無理のない範囲で行事を計画・実施することができた。 ①-2　様々な学校での様子を写真を交えた学校だよりや学年通信、ホームページや校内掲示板で伝えた。 ②　内容の改善や協力しやすい体制のもと方上祭りを開催することがでた。 　協議会でいただいた意見を参考に、児童が自由に参加できる講座を開催することができた。	総合評価 (評定) B (所見) 　可能な範囲で建設的な意見を反映した取組や改善が行えたと考える。教育効果はもとより児童や教職員への負担感も考慮しながら教育活動や行事を実施した。しかし、学校運営全般については、昨年度より評価が下がっており、見直しと改善が必要である。 　ＰＴＡ活動については、よりよく改善しながら実施することができた。実施時期について、検討の必要がある行事があったため、次年度に見直しを行う予定である。 　地域との連携を進めるための取組を小規模ながら行えたことは良かった。	(所見) 　以前も行っていたので児童への野菜指導は行える。 　学校近くにクッション製造の企業があるので協力を要請するのも良いのではないか。	・学校評価における「わからない」という回答の割合が昨年度より増加しているため、保護者に教育活動がより伝わり、理解が得られるように啓発の仕方を工夫する。 ・今年度から始めたカタッチチャレンジ講座を継続させるとともに、地域との連携が進むように協力いただける企業や人材の開拓を行う。また、ニーズをもとに地域への協力を要請する。 ・ＰＴＡ活動については、今年度の反省をもとに、開催時期や開催内容、協力体制の在り方等を検討する。

敬愛信
弁天山
敬う心　愛する心
信じる心